

国語科学習指導案

第2学年

【単元】そうぞうをひろげて（『スーホの白い馬』光村図書2年下）

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることについての知識及び技能 ((1) オ) 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する能力 (C (1) エ) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有する能力 (C (1) カ) 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> 日記を書くときや、授業の交流の中で、自分が感じたことを書いたり、話したりすることができる。 文章で使われている語句の意味を意識して、自分の話す言葉に生かせる子どもが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文学的な文章において、登場人物のしたことや言ったこと、そのときの表情・口調を想像することができる。 文学的な文章において、本文の叙述を基に、感じたことや分かったことを聴き合うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や休み時間に積極的に本を借り、読書を楽しもうとする。 自分の思いや考えを伝える際に、相手に伝わりやすいように、言葉を選んで詳しく伝えるよさを感じることに課題がある。
価値	<p>『スーホの白い馬』は、モンゴルの羊飼いの少年スーホと、白馬との強く温かな絆が描かれている文学的な文章である。文章を読んで、叙述を基に想像したことを聴き合う活動は、本文の叙述と自分の想像したことを結び付けて考えることで、物語全体や各場面を通して様子を想像する力だけでなく、本文中に使われている言葉から具体的な様子を想像する力を高めることに有効である。また、登場人物のしたことや言ったこと、その理由を考えるための叙述を選ばせることで、自分の感じたことや分かったことを、叙述を基に考える力を高めることができる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 「おそろしいいきおいで」「かっとなってむちゅうで」「走って、走って、走りつづけて」等の身近なことを表す言葉が多く使われているため、場面の様子を捉える際に用いられている語句に着目することが有効である。さらに、語句や語句相互の意味関係を明らかにしようとする意欲が生まれるため、物語を読みながら、語彙を豊かにすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『スーホの白い馬』は、スーホと白馬が互いに思いやる行動が描かれている。それぞれの場面で、スーホや白馬に関する叙述があるので、登場人物の行動を具体的に想像しやすく、想像したことから多様な考えをもつことができる。そのため、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する能力を高めることができ、文章を読んで感じたことを共有する能力を育むことへもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と年の近い少年であるため、個人の経験や考え方と結び付けやすく、感じることや考えることに多様性が生まれることが期待される。多様な考えが生まれることで、交流する必然性が生まれ、物語を読んで感じたことや分かったことを友達と聴き合う活動に、粘り強く取り組むことができる。
見方・考え方	<p>『スーホの白い馬』で用いられている言葉の意味や働き、使い方に着目しながら、スーホや白馬、とのさまなどの登場人物と、登場人物や場面の様子を表す言葉、言葉と言葉との関係を捉えたり、問い直したりして、文学的な文章を読み味わうこと。</p>		
今後の学習	<p>3年「読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう」（『きつつきの商売』光村図書3年上）において、「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」「気持ちを表す言葉」に着目し、様子や気持ちを想像する学習へと発展していく。</p>		

指導と評価の計画

目標	物語を読んで想像することと録音することを繰り返し、登場人物の行動を具体的に想像することができる。		
言語活動	文章を読んで、叙述を基に考えたことを聴き合う活動		
評価規準	① 知・技)身近なことを表す語句の量を増やし、話や文書の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(I)オ) ② 思・判・表)「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(I)エ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(I)カ) ③ 主体的態度)文章を読んで感じたことを積極的に共有し、学習の見通しをもって物語の感想を交流しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	2	○『スーホの白い馬』を読んで初発の感想を録り合い、学習課題を設定し、学習計画をつかむ。 学習課題 自分の感じたことや分かったことを、教科書の言葉を使ってつたえよう。	○感想を話し合った後、「どの言葉や文章から感想をもったのか」がはっきりしているかを確認されるよう、「心に残ったスーホの行動」「スーホはなぜそうしたのか」という観点を提示する。
ふかめる	8	○場面ごとに想像したことを聞き合い、想像したことをまとめる。 ・物語の導入 P108L1~7 ・1場面 P110L1~P113L10 ・2場面 P113L11~P117L5 ・3場面 P117L6~P121L3 ・4場面 P121L4~P122L8 ・結び P122L9~12	○場面ごとの様子について、想像を広げられるよう、「したこと」・「言ったこと」・「まわりの様子」「行動のわけ」という観点を提示する。 ○場面ごとに文章全体を見ながら考えの共有ができるよう、場面ごとの本文シートと、本文シートをはさめる台紙を配付する。
	2	○心にのこった登場人物の行動と、登場人物がそうしたわけを紹介する。	○物語の叙述を根拠に、場面を紹介できるよう、「登場人物はなぜそうしたのか」と「そう考えた理由」の観点を提示する。
ふりかえる	1	○世界の昔話や民話を探して読み、単元の学びを振り返る。	○世界の昔話や民話に興味をもつきっかけとなるよう、メディアルームにある世界の昔話や民話をまとめて提示する。

本時の学習（8／13時間目）

ねらい 登場人物の行動の理由を聴き合う活動を通して、叙述を根拠にして具体的に想像することができる。

評価項目 「したこと」「言ったこと」「まわりの様子」「行動のわけ」を中心に、複数の叙述をつなげて、登場人物の行動についてより具体的に想像し
たことを発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>・前の学習では、白馬がどのさまのところから戻ってきた場面について考えたな。相手に納得してもらうために、今日の場面でも、本文の言葉を使って自分の考えを伝えられるようにしたいな。 (課題意識)</p>	<p>○叙述を基に考えを書くことの大切さに気付けるよう、試しの活動を想起させ、感じたことや分かったことを伝えるために必要な力を問いかける。</p>
<p>めあて：スーホのしたことや言ったことから、本文の言葉をもとに想像して、感じたことや、分かったことをきき合おう</p>	
<p>2 文章を読んで、自分の意見の根拠を見つけて、考えを聴き合う。</p> <p>・「なぜスーホはいくばんもねむれなかったのか」か、「なぜスーホはゆめからさめると、すぐ、そのがっきを作りはじめたのか」のうち、「なぜいくばんもねむれなかったのか」について考えたいな。</p> <p>・スーホが、「いくばんもねむれなかった」のは、「目の光もきえていきました。」から、目の前で弱っていった白馬の様子を忘れることができないからだと思うな。</p> <p>・前の場面では、「白馬のせには、つぎつぎに、矢がささりました。」と書いてあったから、白馬の様子は痛々しかっただろうね。</p> <p>・同じスーホの行動について想像したのに、友達とは自分とは違う文と、スーホの行動をつなげて考えていたな。</p> <p>・撮った動画を見たら、前の授業で話した時より長く話せていて、自分の考えていたことも、うまく伝えることができたな。</p> <p>・スーホがいく晩も眠れなかったのは、痛々しい姿の白馬が、目の前で弱っていった様子を忘れることができなかったからだと思うな。 (課題を達成した姿)</p>	<p>○自分が興味をもったことを基に、スーホの行動の理由を考えられるよう、前時にまとめたスーホの行動の中から、本時に追究する課題を選択するよう促す。</p> <p>○自分の考えと、本文の叙述を根拠としてつなげられるよう、本文シートに言葉だけでなく、どこからそう考えたのかが分かるように線を引くよう促す。</p> <p>○場面ごとのつながりを意識できるよう、前時の本文シートを見ている子どもを称賛する。</p> <p>○自分の感じたことや、分かったことを、他者と共有できるよう、ペアで互いに動画を撮り合い、視聴するよう促す。</p> <p>○叙述を根拠にして、感じたことや、分かったことを聴き合えたことを自覚できるよう、試しの活動と比較するよう促す。</p>
<p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>・自分の考えを、相手に分かってもらうために、線を引いたところを見せながら話すことができたよ。次の場面で、スーホはどこへいく時も、馬頭琴を持って行ったと書いてあったな、どうしてだろう。</p>	<p>○学習の達成感を実感し、次時の学習への見通しをもてるよう、「考えを話し合うときに気をつけたこと」「次の時間に頑張りたいこと」の視点で本文シートに振り返りを書くよう促す。</p>